

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4392900041		
法人名	株式会社 翔栄		
事業所名	グループホーム和鹿島		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿野1301番地2		
自己評価作成日	27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成28年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年11月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

共有型デイを併設しており、グループホームの入居者も一緒にラジオ体操・脳トレ、レクリエーション、嚥下体操に参加し楽しませている。午後からの入浴は好きな曜日、時間に入れることができ、希望があれば毎日の入浴も可能である。訪問看護と契約し、定期的な訪問と連絡を密にとり、入居者の健康管理にも努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設より2年目を迎えたホームでは木の香りの残る新しい建物に、入居者9名と併設する認知症デイサービスの利用者が仲睦まじく暮らしている。職員は理念の柱である『ころ寄り添う』介護を日々のケアにどう浸透させていくかを折りに触れ検討し、自身の支援を振り返る機会を持っている。管理者は職員の持つ技術を十分発揮できるよう朝のラジオ体操や、レクリエーション・建物内外の環境整備や調理など日々の生活の中に個々の力を活かし、先ずは職員自身が誇りをもって業務にあたるよう導いている。出来上がった計算問題を嬉しそうに職員に見せに来られる姿や、自分の体調と相談しながら得意な畑作業に関わる様子など、入居者もまたホームでの生活に喜びをもって参加している。直近の運営推進会議では看取りに対するホームの方針を明らかにし出席者に向けわかりやすい表現で思いを伝える等、ホームの現状を明らかにしており、透明性のある事業所運営を目指している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作成した介護理念を見やすいところに掲示しており、職員全員が意識して実践につなげるように努力している。	縁あった人々との出会いに感謝し、『こころ寄り添う』をホームの基本姿勢として4項目からなる介護理念を設けている。理念はパンフレットや玄関に掲示し、職員の意識付けを図ると共に、来訪者や外部へ向け啓発している。家族会の中では入居者に安心して自由に生活してもらうよう、理念をかみ砕いて説明している。	理念は運営推進会議を通じて開設時に地域へも発信されているが、年度初回の会議など、節目の席で啓発することで更に地域へ拡充するものと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会のサロンに職員が参加させて頂いたり、社長や施設長が地域の苦役や行事に参加して地域の一員として交流している。	代表者が地区の区役に年数回参加したり、職員がサロンに出向くなど交流の機会を持っている。また、ゲートボールや子ども神輿などの地域行事に協賛している。また、管理者は近隣者からの認知症についての相談にも気軽に応じ、適切なアドバイスにより対応している。	平成26年開所のホームでは、入居者が地域へ出る機会を模索しながらもまだまだ不十分としている。今後も運営推進会議などで得られた地元情報をもとに、入居者と地域の接点が生まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会のサロンにて時間を頂き、認知症についての理解や支援の方法の勉強会を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況等は報告しているが、サービスの向上に活かされてない。	運営推進会議には行政や包括、地域や家族の代表者などの協力が得られている。2ヶ月ごとの活動報告の後、行政から新たに始まる社会制度について説明などが行われている。参加者からの発言も多いが、運営に直結するような意見や提案はまだ少ないようである。直近の会議では、管理者より看取り支援に関するホームの考え方を参加者にわかりやすく紹介している。	今後は学生の体験学習など受け入れる機会があれば、学校関係者など、少しずつ幅広い分野からの参加を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、ケアサービスの取り組み等を伝えて、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政の運営推進会議への参加により情報を発信し、ホームの現状を見てもらいながら友好的な関係を築いている。今回行政担当者のアドバイスにより防火無線の設置が行われている。今後も協力体制の構築に努めていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	繰り返し研修をしながら身体拘束をしないケアを実践している。玄関は8:30～18:00までは施錠してない。外に出られるときは付き添うようにしている。	職員は毎月のカンファレンスの中に、身体拘束について考える機会を持ち、特にスピーチロックについては時間をさいている。日中の玄関はオープンであり、外出傾向にある方も行動を止めることなく、見守りによって入居者の自由な生活を支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会に参加したりカンファレンスで勉強したりして虐待がないよう全員で注意を払いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が少なく、あまりよく理解できない職員が多く、支援できてない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項は、施設長と管理者が行なっており、十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議に1名の家族代表に参加して頂き、意見・要望を出して頂いている。それを運営に反映させている。	計画作成担当者でもある管理者は、面会時に家族に介護プランを説明しながら、同時に意見や要望を求めている。入居者へは普段の会話の中からさりげなく意向を引き出している。中には発語困難な方もおられジェスチャーを交えた会話の中から要望をくみ取ったり、普段の行動や表情からも推察している。	管理者は今後家族アンケートを実施したいとしており、全職員で質問内容を話し合ったうえで実施されることに期待したい。また、意見箱の設置についても検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月15日に会議を開催し意見・提案を聞く機会を設け早めに対応、検討し、運営に反映できるようにしている。	職員が普段から何でも言える職場環境を整えている。月の会議ではケアの見直しなど、入居者に関わる内容が最も多く、毎日実施している脳トレも職員の研修経験からスタートしている。何か課題があれば全員で話し合い、意見を出し合いながらホーム運営に反映させ、重要な案件は運営者に声をあげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設より2年目の春は、基本給を一律に全員昇給した。資格所得者には、手当てを支給した。業務内容を見直した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの得手不得手を把握し、自信が持てるように業務内容を融通させている。施設内研修及び外部研修情報を知らせ、自主的に研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新人職員は他のグループホームを見学させてもらったりしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ傾聴を心がけ、不安なことが取り除ける様、安心した生活が送れる様、なじみの関係ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に耳を傾け、当施設の方針等も伝え安心していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時に、職員の意見等を参考にし「いま」その方が必要としている支援が出来るように提案し、実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活暦やできる事を尊重し、喜びや楽しみを共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に不安、孤独等感じられる時は、傾聴に努め、家族を話題にした話を出し、家族の絆を思い出されるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来設しやすい環境作りはしているが、場所との関係継続支援はできてない。	家族や親類の訪問時には入居者の近況を話題にしなが、ゆっくりと過ごしてもらおうと呼びかけている。入居者の日々の生きがいでもある畑仕事や包丁研ぎ、計算問題や歌などがいつでも発揮できる体制を整えている。また、お茶や入浴時の湯温など個々のこだわりを理解し対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活暦や好みなどから、職員が仲介となり利用者様同士がなじみの関係になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方(共用型デイ)は他施設に入所された為、フォローできてない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の方が暮らしてこられた生活スタイルを崩さないようスタッフと情報交換しながら、客観的に判断するように努めている。	日常の暮らしの中で入居者の希望を聞き取っている。表現困難な方へは普段の様子から推察し、家族からの情報をもとに、本人の願わんとする思いに近づく努力をしている。入居者の思いはプランに盛り込まれ、日々の支援に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に話を聞いたりして、これまでの暮らしぶりを把握しサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録などから一人ひとりの状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファで利用者様に対してのケアのやり方や問題点について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した現状に即した介護計画を作成している。	職員を入居者の担当制としており、ケア会議で本人・家族の意向を煮詰めながらプランに繋いでいる。好きな歌が安心して歌える周りの環境や、外出傾向にあっても何気なく付き添い散歩を兼ねて外に出るなど、本人主体の内容としている。計画作成担当者は、家族へプランの説明を行う際はわかりやすい言葉で進めながら了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等、個別記録に記入し職員間で情報共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて受診時の同行、病状に応じて訪問看護などのサービスを導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの河川敷に花見に行ったり、秋は立神峡に行ったり、買い物にスーパーに同行したり、近所を散歩したり畑に作物を植えたり、暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診情報(生活状況の報告)を作成し、バイタルチェック表と一緒にかかりつけ医に渡していただき、適切な医療が受けれるように支援している。	これまでのかかりつけ医や訪問診療可能な医療機関(協力医をはじめ他2ヶ所)に変更された方など希望に応じた支援である。また、訪問による歯科や看護など入居者の状況に応じた健康をサポートしている。職員は看護職員を中心に健康管理や毎食後の口腔ケアに努めており、気になる点は書面でかかりつけ医に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や気づきを伝え相談し、その時に応じた支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状悪化が認められた時には、かかりつけ医が的確な病状把握できるように資料を作成し提供している。一部の病院関係者との関係づくりは出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針については、家族会等で施設のほうから説明し、職員も方針を共有し、支援に取り組み始めた段階である。	重度化や看取り支援については、指針をもとに家族の席で説明を行っている。また、ホームに出来る支援を伝えながら、今後の意向(特養への申し込みなど)を確認している。方針については職員間の共有を図り、支援に取り組み始めた段階であり、管理者は今後必要に応じた研修について語っている。	すべての出会いに感謝し、こころ寄り添う介護を掲げており、今後ご縁のあった入居者・家族に寄り添いながら最良の時間を提供していきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当が出来ない職員もいるので、全員が今年度内に救急救命の講習を受け、実践力を身につけよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、利用者が避難できる方法を身につける様にしている。地区の消防団に施設の概要を伝えている。	今年度は避難訓練を5月に昼想定で、12月に夜間想定を予定している。地区の消防団にはホームの概要を伝えており、管理者は今後も協力関係の継続を語っている。自然災害については、訓練の実施には至っていない。	まずは火を出さないことが一番であり、外周りやホーム内(台所や居室のコンセントの埃など)の項目に沿った安全チェックも必要と思われる。また、備蓄への取り組みや自然災害についても机上での訓練や職員の緊急呼び出し、連絡網訓練の実施に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が嫌な思いをしないような言葉遣いや声かけをするように心がけている。	入居者を尊重し、笑顔のある生活を支えることを理念に謳っている。日常の支援の中で不快に感じるような言葉使いや対応がないよう努め、呼称は苗字や名前にさん付けを基本とし共有を図っている。個人情報の使用について家族の承諾を得、職員の守秘義務についても指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意識して働きかけているが、時折業務優先になっていると反省することもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが理解できてない部分もあり、時間にゆとりがないと職員のペースになる時もあるが、希望があればそれを実行するように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の時は、理解できる方は、いっしょに着替えを選ぶようにしたり、入浴後、整髪や化粧水つけるなどの支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はほとんど施設長が調理しており、利用者の好みも把握している。主に職員が準備・片付けはするが、気分によりテーブル拭きの手伝いをされたり皿寄せなどすることがある。同じ食事を一緒に摂っている。	献立作成や食材の準備、調理は施設長が中心にガスで調理を行っており、旬を活かした家庭的なメニューが栄養のバランスよく提供されている。入居者はもやしの根切りや粉末にして使用するいりこの頭取り、テーブル拭きなどできることを一緒に楽しみながら支援している。また、菜園での野菜作りや包丁研ぎを率先して行って下さる方など、これまでの経験を活かした食への関わりをしている。職員も同じ物を一緒に食べることで、思いを共有しており、弾む会話で楽しい食事の時間であった。	食事支援中のエプロンについては、首に負担や不快とならないような方法で支援されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分確保については必ず記録に残し職員間で情報を共有し支援している。気分により食事量・水分量にの確保が困難な利用者様には、タイミングをはかって再度提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は口腔ケアのお手伝いをして清潔の保持に努めているが時折、拒否もあり不十分になるときもある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣、癖を把握し排泄の失敗が少なくなるように支援している。	日中はトイレでの排泄を基本とし、自立の方の継続や個々の状況に応じた排泄用品を使用し、失敗のない支援に取り組んでいる。昼間は布下着の方やリハビリパンツを着用されているが、夜間は安眠や安全面からおむつやポータブルトイレを使用する方もおられる。排泄用品は適切な物を伝え、家族の購入としているが、困難な場合はホームで準備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維が多く取れるよう工夫し、ラジオ体操等で身体を動かすように取り組んでいるが、予防できてない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間に希望がある方には出来るだけ希望に沿えるようにしている。拒否があった場合は無理強いせず、希望があれば毎日入浴することができる。	1日おきや連日の入浴、一番風呂や同性介助など本人の希望や体調に配慮しながら支援しており、汚染時はシャワー浴を取り入れながら清潔保持に努めている。ゆっくりと入ってもらうことや、湯船で昔話をしながらの対応など職員は楽しい入浴となるよう工夫している。また、菖蒲や柚子湯の季節湯では、全入居者が味わえるよう2日続けて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や就寝希望などは本人の希望に沿えるようにしている。また、安心して良く眠れるように寝具の洗濯・交換、室内の温度調整等個々にあった支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情等に目を通し、服薬される薬の把握、また、服薬されることによる症状の変化に気をつけている。服薬の変更があった時は、服薬後の症状観察を注意深く見守り、変化を見逃さないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事・買い物・脳トレ・ラジオ体操・歌のレクリエーション・嚙下体操・洗濯物たたみ・掃除手伝い・散歩・レクリエーション等の気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によって買い物等の外出支援は出来ている。地域の人々の協力での支援はできていないが、家族との外出支援は一部の利用者にはできている。また、外出支援の提案を一部の利用者家族に声かけしている。	入居者の希望があれば買い物やホーム周辺を散歩したり、野菜作りを得意とされる方を中心に菜園の管理などに取り組んでいる。また、地域資源を活用して(花見・立神挟など)ドライブに出かけている。また、家族に外出の提案を投げかけるなど、入居者の意向を代弁しながら一緒に外出支援に努めたいとする思いが聞き取りからも確認された。	今後は個別支援の充実や地域の祭りへの参加など出来る中で近隣・地域との交流にも繋がる外出支援が展開されていくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物される利用者は1人だけだが、希望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援はできてない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地がよく、混乱を招くことがないよう大きな音・大きな声を出さないように心がけている。また、季節に合った花を飾ったりしているが、掲示物からも季節感を出せるようにしていきたい。	共用空間は季節に応じた飾りつけや室温管理に加え、職員の声の大きさやトーンも大切な環境として捉えている。このことは、理念の一つでもある『居心地の良い、安らぎのある暮らし』にも通じるものであり、意識して実践できるよう意思統一を図っている。玄関ポーチには手入れの行き届いたプランターや鉢植えが置かれ、入居者や来訪者にとっても開花や成長が楽しめる空間となっている。	開設して2年のホームであり、建物には傷みなどないが、今後は風呂場や脱衣所、廊下をはじめ共用空間の物品や掲示物などに損傷がないか、また整頓されているか定期的に確認をされる事を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個々の毎日の過ごし方や利用者同士の関係を配慮しテーブル、ソファ等位置の変更したりして、居場所作りに勤めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に本人の使い慣れたものや好みのものを持って来ていただくように声かけしている。また、入所当時、持参された家具・備品等はその方の状態により片付けている。	本人がこれまで使っていた家具や布団など自由にコーディネートし、思い思いの時間を過ごせる居室作りについて協力を依頼している。職員は朝からの換気を徹底する他、掃除の際は物品の位置など安全面も確認しながら実施している。周辺には高い建造物もなく、居室の窓からの眺めは菜園や田畑など自然に囲まれており、嬉しそうに居室を案内される方など、居心地よく過ごせていることが確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が利用される場所は大きい文字で表示して自立して生活できるように工夫している。		